

今後の検討の基本的な方針と主な施策

● 区立幼稚園のあり方に関する基本的な方針と主な施策

今後の検討の基本的な方針と区の現状・課題

① 質の高い教育の提供継続

- ・ 幼児教育の拠点園として、質の高い教育の提供を通して公立園としての様々な役割を果たしていくことが重要であり、そのために地域の実情や保護者のニーズを踏まえた上で運営形態を検討していく必要がある。
- ・ 一方、区においては、近年の顕著な園児数の減少に歯止めがかからない状況が生じているほか、保育年数や保育時間などについて、保護者が求めるニーズに十分に対応しきれていない現状がある。

② 配慮を要する幼児の教育機会保障および早期支援

- ・ 公立園として、質の高い幼児教育の機会を全ての幼児に保障する役割を有しており、障害のある幼児や外国籍の幼児等を含めて教育機会の保障に果たす運営を行う必要がある。
- ・ 区では、年々障害児数もその割合も増加しており、更なる体制強化が求められている。また、もっと早い年齢からの保育の実施や、預かりサービスの充実など、保護者が求めるニーズに十分に対応しきれていない現状がある。

基本的な方針を踏まえた、今後の主な施策

- 園児数が減少傾向にあることや、今後の幼児教育の需給が供給過多となる(※1)ことを踏まえ、適正な規模を検討する。
- 公立幼稚園のあり方や保護者のニーズを踏まえ、3年保育・預かり保育の実施など、求められている教育需要に応えていく。

- 教育機会保障の役割や保護者のニーズを踏まえ、3年保育の実施により更に早期の受入を実現するほか、長期休業中の預かり保育の実施により受入体制の充実を図る。
- 支援体制の更なる強化のため、職員の経験・ノウハウの早期共有や介助員の柔軟な配置を目的とした人的資源の集約を行う。

※1 第3期練馬区子ども・子育て支援事業計画（令和7年3月）より

幼児教育の今後の需給、
要配慮児の支援体制充実を見据えた

① 3園→2園への集約

教育需要への対応、
要配慮児の早期受入を見据えた

② 3年保育の実施

教育需要への対応、
要配慮児の受入体制充実を見据えた

③ 長期休業中の預かり保育の実施